

大野城市共働事業提案制度

中学校部活動の地域連携に向けた検討事業

中学校部活動検討実行委員会

NPO法人 部活ガンバ
大野城市教育振興課

①事業開始当初の事業計画

教育振興課

令和4年度当初の計画

- ・土日の部活動から地域連携する。
- ・試行期間として令和7年度までの3ヶ年計画で行う。
- ・部活ガンバとモデル体制を模索し、提案する。

部活ガンバ

課題や現状を「見える化」してから、大野城市の「部活動の地域移行」を進めていきたい。

- ・全員顧問制に対する教員の意識調査
- ・地域移行に必要な、指導者、支援団体などの調査
- ・これまでの活動や繋がりを生かした提案をしたい



②新たな事業方針決定の流れ

教育振興課

令和5年度途中の市の方針変更

- ・令和5年度中に方針を決め、令和6年度から試行する。
⇒事業方針の検討期間の短縮。
- ・「地域連携」では教員の負担が軽減されないため「地域移行」の方向で検討する。
- ・令和6年度からモデル校を選定し、試行を進める。

部活ガンバ

引き続き「部活動の地域移行」の現状と課題を調査し、報告する。

- ・地域移行を進めている自治体の事例収集
- ・中体連、スポーツクラブ関係者からの情報
- ・学校関係者からの情報収集、意見交換



③新たな方針と事業開始当初の計画のギャップ

教育振興課

市の方針に沿った事業展開

- ・教育委員会で学校や地域、他市の状況等についての調査を実施。
- ・「大野城市地域クラブ活動実行委員会」を運営団体とする事業モデルの構築。
- ・令和6年度からのモデル校を決定し、試行に向けて関係機関と協議。
⇒生徒の活動環境確保のため、早期の事業開始を目標に進める。

部活ガンバ

当初の計画に沿って進めて行きたい

- ・教員のアンケートに基づいた実施計画
- ・外部指導者や地域の協力団体の調査
- ・モデル自治体からの聞き取り調査
⇒より良い事業モデルの構築のため、時間をかけて入念な調査を行いたい。



④成果

教育振興課

- ・行政と別の視点での意見を方針策定の参考にすることができた。
- ・市の方針を進める上でのサポーターとして、「部活ガンバ」の調査を生かせるようになった。
- ・共働事業提案制度を行ったことで、共働事業の経験、見識を他事業に活かすことができるようになった。

部活ガンバ

- ・「部活ガンバ」としての強み（解像度の高い調査）を認識できた。
- ・今後も大野城市の方針を進める上でのサポーターとして活動したい。
- ・地域移行について「見える化」するためのネットワーク形成調査が進んだことにより、新たな課題認識と次の取り組みの検討材料になった。



⑤令和6年度以降の事業展開

教育振興課

- ・教育委員会を実施主体とし、関係機関の代表者からなる大野城市地域クラブ活動実行委員会に運営を委託し、事業を進めていく。
- ・今後のスケジュール
令和6年度モデル校1校、7年度3校に拡大、8年度全校で実施
- ・試行内容をもとに、実行委員会にて事業内容を検討、修正し、生徒にとってより良い環境の整備を行う。

部活ガンバ

- ・調査、検証したことを「部活ガンバ」サイト内で発信する。
- ・大野城市のこれからの活動も紹介していく。
- ・大野城市から協力要請があれば率先して協力する。
- ・今回の取り組みの経験を生かして「地域移行」を活動テーマとして取り組んでいく。

